

人の未来があるために、「ローカル」が必要です。

English title: *Local is Our Future* (book excerpt)

によって書かれた/ written by: Helena Norberg-Hodge – Founder & Director,
Local Futures

によって翻訳されました/ translated by: Majesty Zander

嬉しいことに、そのローカルな未来への道はもう築かれています。メディアが主張する「大きい方がいい」という考えより穏やかで、「女性的」な考えも存在しています。人は他人と自然との繋がりが人の本当の幸せということがようやく気づいています。そして毎日、新たな行動が現れています。

人は本当に必要で、すべての入用を満たされる経済は自然界のことを益々理解しています。私たちが現在の経済にあるローカルな制度に転向する時だけにそういう理解を反映される生活ができることとなります。

ですが、私たちの政治家や業者がこの理解はまだ出来ません。その故に、私たちが生物工学を食わせる世界、ネットでのグローバル化された世界、すべての労働をするロボットがある世界、そして現在より更に豊かな富者たちと貧困に苦しんでいる人がたくさんいる世界の道へ進めさせられています。

この未来の世界がどんな形をしているのでしょうか。グーグルのレイ・カーツワイルによると、未来にインビトロクローニングした肉やAIに管理されるビルで作った食事が普通になります。テスラのイーロン・マスクによれば、火星で都市を建てないと人類が長く生かしません。そしてゴールドマン・サックスによると、基本的な物をデジタル化すればするほど生産力も効率も収益性も改善するはずで。

こういうアイデアがよく斬新や大胆など言われているが、本当の結果は都市化、商品化、新植民地主義の拡大。この制度は人の労働とエネルギーを廃棄物として扱われます。同時に、私たちの税金はドンドン使い果たしている希少な自然資源を払っています。この制度は失業も貧困も公害も増大しています。

この制度は確かに大衆の意志ではないけど、制度を支援している人々は「悪い人」と「良い人」だけでもないです。支援している人たちはよく経済の表や指標を夢中になって、自分の行動の結果もよく気付いていません。

ある意味では、私たち皆がこの制度に陥れています。自分の生活や株主などを失われる可能性を恐れながら、大企業の社長たちだって仕手相場と景気に支配されています。だから、変えなきゃならないものは制度の人々ではなくて、制度そのままです。

しかし、この制度は唯一のではありません。世界中に深い絆と繋がりを求めている人々も散々います。この人たちは基本的な変更を支えています。富者たちの物欲で気まぐれな幻想と違って、この人々はもっと人間的な構想を求めています。

グラスルーツのレベルで各大陸の人々は地球とその環境に再び繋がって試みしています。この人々は盛んにしているロカールな経済と共同体を作っています。人と繋がれる共同体、ファーマーズマーケット、代替教育、そして生協ビジネスも全部作られています。

ローカリゼーションのおかげで、問題の原因がはっきり見えるようになりました。人間性ではなくて、膨大なテクノイコノミックなモノカルチャーがその原因です。人間的な制度に入ったら、人は生まれ変わったり、自分の生きる理由を見つけられたり、心の病から開放したり、人との繋がりを直ったりすることが見たことがあります。そして、このロカールな運動が「世界を変える」の希望より常識から生み出します。

この運動は白黒の考えより、皆全身の理想や夢が栄えて、自然を中心している文化を作る運動です。この運動の目標では独占事業に頼らない、ローカルの人々の入り用が優先できる社会。その入り用が産業に作った消費主義的な「入り用」ではなくて、人の本当の入り用です。

ローカリゼーションというのは借金から抜け出して、人と自然界でできてる本当の経済に戻られることです。勿体ない完璧さを求めて食品ロスを増加しているチェーンスーパーマーケットと違って、ローカールのマーケットには様々な食品が必要なので、もっと生態的な生産と食品を売り込んでいます。それで、機械で作って化学物質に溢れている食品が減りながら、農業のような自然的で有意義な仕事も増えています。ローカリゼーションで二酸化炭素の急激な減少、プラスチック包装の廃す、生物多様性の増加、富裕

の流通、生産者と消費者の間の会話、そして相互依存に中心している文化を作ることにも出来ます。

こういうローカリゼーションの効果は「ソリューションマルチプライヤー」（解決逡倍器）と言います。グローバルモノカルチャーの中で、私は建設現場の樹木を突き崩しながら、外来鋼鉄やコンクリートばかり使っている住宅建設を見たことがあります。それに対して、ローカリゼーションで自然資源をもっと斬新的な使い方が出来ます。それは空想的に見えるかもしれないが、集中的で自動的な制度の依存から抜ければ、医者と患者や生徒と先生などの比率を再びバランスができて、個性的の入り用と実力も優先出来ます。

失業が存在していない世界を構想することは無茶ではありません。商品の値札と同じように、失業というのはただの採算を求めている政治的な選択の事です。

人間的な経済を強化すると、意思決定も変化されます。それで私たちが簡単に左右される制度ができることも、行動と世界観を良好になる深い繋がりを作ることも出来ます。こういう風に行動の結果が見えるようになったら、私たちはきっと環境に存在している命の複雑さを尊敬するようになれます。

基本的なレベルでは、いつまでも進化していて変わっている宇宙もローカリゼーションのおかげで尊敬出来ます。荷札から生きる価値を得ることではなくて、ローカリゼーションであらゆる人も動物も植物もそれぞれの特徴や活力を気づかれます。そのおかげで、私たちは人との繋がりのできているウェブの一部として幸せが感じられます。

今、私たちがとても重要な選択をしなきゃならないのです。一つの選択はモノカルチャーの世界に進んでいます。その世界で皆が人と自然界から離れて、社会と環境の減退を早めます。一方で、ほかの選択の世界で皆が徐々に深い絆ができて、私たちの唯一の地球を大切に、人の重要な社会的な、経済的なものが作り直せます。

This is an excerpt from the first chapter of Local is Our Future: Steps to an Economics of Happiness, a new book by Helena Norberg-Hodge, published by Local Futures in July 2019.

Paperback copies and E-book of Local is Our Future are available to order from Local Futures' online store: <https://www.localfutures.org/store/Local-is-Our-Future-p140051233>